

緒 言

2024-2025 年度代表幹事 藤原千沙

学会誌『経済社会とジェンダー』第10巻をお届けします。2024年度大会の共通論題報告を踏まえた論文4本、会員の投稿による研究ノート4本、会員の書籍の書評2本という盛りだくさんの内容で、本巻より小ヶ谷千穂編集長が率いる新しい編集委員会のもとで制作していただきました。編集委員の皆様、本誌にご寄稿いただいた執筆者の皆様、査読を引き受けていただいた会員の皆様、編集・印刷・発送作業に携わっていただいた皆様、関係各位に厚く御礼を申し上げます。

専修大学神田キャンパスで開催した2024年度大会では「フェミニスト経済学とエコロジー」というテーマを共通論題に掲げました。座長の趣旨説明にもあるように、日本では1980年代の「エコフェミ（エコロジカルフェミニズム）論争」などの影響もあり、フェミニスト視点からエコロジーを論じることは、どちらかという避けられがちな傾向がありました。しかし市場という領域だけでなく、人間の必要を充足するものが生みだされている非市場の領域も視野に入れるフェミニスト経済学は、生態系の問題を無視することはできません。本誌に書き下ろしていただいた登壇者の論文はそのことを十二分に伝えており、日本でもこの分野の研究が躊躇なく進んでいくことを確信させるものです。

2024年度大会では短い時間でしたが「国際フェミニスト経済学会（IAFFE）トークセッション」を設け、IAFFE大会に参加した会員の経験や日本で開催する際に留意することなどの意見を交わしあいました。現在、2027～2029年のあいだに岡山大学にてIAFFE大会を招聘する準備を進めており、幹事会とは別にIAFFE日本大会準備会が発足しています。このトークセッションでは、大会を後援していただいたお茶の水女子大学ジェンダー研究所の国際シンポジウムのために来日されていたウェンディ・ハーコート氏（エラスムス・ロッテルダム社会科学大学院大学（オランダ））も参加してくださり、IAFFE会員でもあるハーコート氏から大会運営に関する有意義なご助言をいただきました。IAFFEの日本大会の時期はまだ確定ではありませんが、少しずつ準備を進めてまいります。

なお、大会時に開催した総会の審議において、本学会が日本学術会議の協力学術研究団体として指定を受けることが承認され、2024年11月に申込みを行い、2025年2月に指定されました。査読付きの投稿論文等を掲載した学会誌を継続して発行していることが指定を受けられる条件の1つでしたが、すでに10巻を迎える本誌の刊行で十分に条件が整い、会員100人以上という条件も整ったことから、指定申込みに至りました。日本の学術を支える学会の1つとして、気持ちをあらたに活動してまいりたいと思います。会員の皆様の変わらぬご協力をお願いいたします。